國際青年

2019年（令和元年）11月1日発行

第49号

埼玉国際青年を育てる会・会報

Saitama Association for International Youth Volunteers

★2019（令和元）年度定期総会

2019（令和元）年５月25日（土）
国際交流基金　日本語国際センター

「埼玉県国際青年を育てる会」の総会が、来賓に埼玉県県民生活部国際課安部里佳副課長、一般社団法人協力隊を育てる会奥永眞智子常任理事をお迎えして、瀬島孟副会長の開式の言葉のもと13時30分から開始されました。

開会の挨拶の中で星野和央会長は、本会について次のように話されました。本会も今年で24年たちました。平成７年に発足し、令和の年まで歩み続けてきたということは、多くの方々のご支援があったからこそと思います。本当にありがたいことと感じます。また、長く続けていると運営の仕方にも課題が出てきております。一つは、私たちの会は「国際青年を育てる」ということに力を入れ、その柱として「出前講座」を開催しています。協力隊員が体験したことを次の世代である子どもたちに語りかけ、協力隊の活躍を知り国際性を育むきっかけとなればという目的で取り組んでいますが、仕事の関係で参加が難しい隊員が多く、また学校現場でも教育課程の中での位置づけが難しく実施したくても時間がないという問題があるようです。今後見直さなければならないと考えております。もう一つは、私たちの会は様々な人たちに支援され成り立っているということです。協力隊OB、家族、賛同される方など多くの方々を大事にしていかなくてはなりません。「会員を少しでも増やしていく」これも常に考えていかなければならない大事な課題です。と訴えました。

次に、星野会長の議長で議事に入り、「2018年度事業報告」「2018年度決算報告」「2019年度事業計画案」「2019元年度予算案」の４議案が提案され、全ての議案が承認されました。

続いて来賓の埼玉県県民生活部国際課安部里佳副課長からご挨拶をいただきました。はじめに当会の星野会長をはじめ会員の方々の日頃の活動に敬意を表されるとともに、埼玉県国際課の取り組みについてのお話がありました。

ラグビーワールドカップ2019や東京オリンピック・パラリンピックなど世界的なスポーツ大会の開催に向けて多くの外国人が来県するため、県ではそれに対応できる「外国人案内ボランティア」の5,000人育成事業や、埼玉県及び日本とアジア諸国の懸け橋となる人を育成する「日本語パートナーズ派遣事業」では、インドネシア、タイ、ベトナムへの派遣募集などを紹介していただきました。

埼玉県としましても今後とも皆様と連絡を図りながら国際政策を進めていきたいと思いますと結ばれました。

●49号目次●

・2019（令和元）年度定期総会……1
・帰国隊員報告会……2・3
・2019年度壮行会……3・4
・新入会員のご紹介……4
・現地レポート……4～7
・派遣国一口知識　その②……5
・埼玉国際青年を育てる会設立当時の思い出……8
・事務局便り……8

一般社団法人協力隊を育てる会奥永眞智子常任理事からは、総会の開催に当たりお祝いの言葉をいただきました。また、協力隊員の現地で残した足跡が日本の理解となり確実に残っていることの素晴らしさや、日本に来ている諸外国の方々を孤独（独りぼっち）にさせないことが、これから帰国される隊員の大切な仕事ですというお話をいただきました。

その後、矢部保雄事務局長の閉会の言葉で定期総会は滞りなく終了しました。　（黒須琢也）

★帰国隊員報告会

定期総会に引き続き、昨年７月に任地より帰国したばかりのJICAボランティア２名による帰国隊員報告会を開催しました。お二人とも、協力隊員としての任務を全うしつつ、自らを成長させた任地での２年間を熱く語っておられました。

報告者：青年海外協力隊 倉澤友子（さいたま市）
派遣隊次：2016(平成28)年度１次隊
派遣国：エクアドル　職種：作業療法士

任地は、赤道の国エクアドルの首都キトからバスで７時間余りの標高2600ｍの高地、サンミゲル市。永年勤めた日本の病院での経験を、任地でどのように生かそうかとワクワクしながらの着任だった。要請内容は、外来患者に対してのリハビリおよび生活面の指導、そしてリハビリサービスの質的向上などの技術伝達と、設備の改善だった。エクアドルは、中南米の中でも医療水準は低く、その上、診療所のレベルも地域格差が大きいと言われる。より良い医療を受けるためには多額のお金がかかるため、十分な医療を受けられない住民も多く、今もなおシャーマンによる祈祷に頼る人々も残る。

活動場所の、市慈善財団リハビリテーションセンターで２年間お世話になった同僚は、作業療法士１名、事務員兼リハビリ助手１名、清掃員１名。そして、１人の医師が時々。しかし、日本では考えられないくらい設備と知識が不足しており、何から手を付けていいのかわからず、自分の思い通りにいかないことにいら立ちさえ感じた。日本で自分が活動できたのは、十分な施設設備があり、かつ周囲の協力があったからだということを痛感させられた。ここでは、日本での知識、経験はそのままでは役に立たない。「ここではすべてゼロからのスタートだ」と自分に言い聞かせ、リハビリに必要なものの多くは、身近なもので手作りした。それを見せることにより、私が帰国してもこの地域で活用し続けてほしいという気持ちを伝えたかった。「お金がないからできない。できなかったとは言いたくないし、言わせない」これを信念に頑張った。

２年間を終えても、着任後感じた大きな課題「住民の病気や健康に対する知識の不足」の改善は道半ばであったし、悲しいことに、真の意味でエクアドルの人々を理解することはできなかった。しかし、互いに尊敬と信頼を持ちながら努力することはできた。隊員は、任地の人々に協力してあげるのではない。相手が抱える問題に対し、自身で解決できる糸口を一緒に見つけることだと思えるようになった。「国際協力」の意味が少し分かった気がした。

報告者：青年海外協力隊　後上正幸（幸手市）
派遣隊次：2016(平成28)年度１次隊
派遣国：モンゴル　職種：理学療法士

任地は、大都会の首都ウランバートルから東に670キロメートル余りにあり、車では９時間もかかる地方都市ドルノド県チョイバルサン市。周囲は、見渡す限りの大草原。モンゴルは、途上国というよりは中進国なので、日常生活に困ることはない。協力隊参加は、中学時代からの夢であり、日本の病院で培った経験をどのように生かそうかと胸躍る出国だった。要請内容は、県の総合病院と家庭病院、地方の診療所でのリハビリとホームリハビリおよび指導。そして、障害者自立に向けた啓発活動だった。勤務先であるドルノドメディカル医療センターは、職員500名、ベッド数336床の大きな施設であり、リハビリテーション科も、ドクター３人、ナース７人。しかし、PT（理学療

法士）は１名のみ。モンゴル全体でもPTの数は、10万人当たり3.4人（日本は約80.9人）と、かなり少ない。活動の中心は、医療施設での技術移転と指導。そして日本の看護、リハビリ、障害者をテーマにしたセミナーの開催である。市の中心を離れると、医師はほとんどいない。ほとんどの人はトラックや馬で遠くからリハビリに通院しなくてはならない。私は、自ら出向いて治療するほか、杖の使い方や介護の仕方など、家でできるリハビリの動画を作成し、保健局のフェイスブックで流し、好評を得た。しかし、課題は私が帰国した後の継続である。故に、同僚PTへの技術伝達は必須であった。ここで、人に伝えることの難しさを痛感したのだが、これをクリアする助力となったのが、山本五十六の「やって見せ、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば人は動かじ」の言葉であった。相手に伝えるためには、相手を理解し、何に興味を持っているのかを知ること、そして、接し方、タイミング、指導方法を適宜変えていくことの必要性をこの言葉から学び、実践した。自分の思い通りにはいかないことも多かったが、少しずつではあるが、変化を感じることが出来るようになった。「傷つくこともあるけれど、それを越えなければ良い出会いはない」と感じた２年間だった。（小島章裕）

終了後の懇親会風景

★2019年度壮行会

■2019年度１次隊壮行会
- 2019（令和元）年7月12日（金）
- 埼玉知事公館１階大会議室
- 埼玉国際青年を育てる会・青年海外協力隊埼玉県OB会共催

冷たく湿った気流の影響で、曇りや雨の日々が続く中、埼玉県主催の親善大使委任式に引き続き、知事公館１階大会議室において壮行会を開催いたしました。

今回の派遣隊員は13名、最近派遣先から帰国したばかりの３名の帰国報告者隊員を迎え、青年海外協力隊埼玉県ＯＢ会大野信一氏による司会進行で進められました。

本会星野和央会長は、埼玉県の親善大使として、埼玉県の事をよく理解し赴任していただきたい。又、列席の経験豊富なＯＢの話を聞き、今後の活動に生かしていただきたいと述べられました。

引き続き、埼玉県県民生活部国際課濱田主幹は、世界各国と埼玉の架け橋になって、世界各国の様子や経験を伝えていただきたい。と、又JICA東京市民参加協力第一課高田宏仁課長は壮行会開催に感謝を述べた後、派遣先では年代・バックグランド・職種等が異なる色々な人と交流するが、２年間出来るだけ深く交流し絆を深めて下さい。そのことが帰国後に大いに役立つと思います。と挨拶されました。

次に、派遣隊員一人ひとりから自己紹介と派遣後の抱負が語られました。

今回の一般派遣隊員13名の職種は、防災・災害対策、コミュニテイ開発、小学校教員、野菜栽培、体育、環境教育、青少年活動、障害児・者支援、ＰＣインストラクター、日本語教育、看護師

派遣国はセルビア、ベナン、モンゴル、ルワンダ、ヨルダン、ミクロネシア、ネパール、キリギス、フィリッピン、ザンビア、ウズベキスタン、コロンビア、ウガンダと様々でした。

帰国報告者隊員

続いて、本会瀬島孟副会長の乾杯発声後、恒例の懇親会となり帰国報告者隊員及び協力隊OB会の皆様を含めて、出席者全員で和やかに歓談がなされました。

歓談終了後、帰国報告者隊員、協力隊OB会員から１日１日を楽しんで任期を終えて下さいなど、激励の言葉やアドバイスをいただきました。

又、海外在留経験豊富な理事から、公用旅券の取り扱いについての注意や派遣地に赴任したら速やかに領事館へ届け出ることなど、貴重なアドバイスがありました。

最後に、帰国報告者隊員の皆さんも含め記念撮影をして、閉会となりました。

（川嶋　清）

新入会員のご紹介（48号発行以降入会の方）

（団体会員）

大宮シティロータリークラブ

（個人会員）

大森　毅（さいたま市）

入会のご案内

当会では、随時会員を募集しております。是非お知り合いをご紹介ください。申込書などは事務局に用意してあります。お気軽にお問い合わせください。

【年会費】

①個人会員：一口　3,000円
②団体会員：一口　10,000円
③法人会員：一口　20,000円
④寄　　付：大歓迎

現地レポート

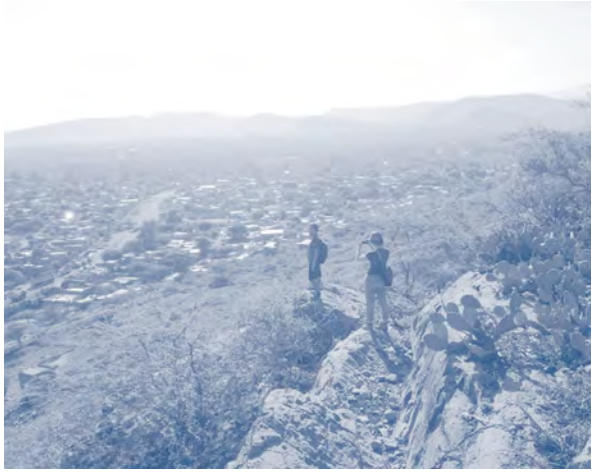
■田野井みずき（上尾市）
2018年度3次隊　エチオピア SV　コミュニティ開発

エチオピアで「仕事」を考える

私の任国エチオピアは、世界最貧国の１つといわれるアフリカの国です。過去10年以上２ケタの経済成長をしているという明るい話題の影で、今も多くの人が貧困といわれる状況にいます。現在のエチオピアの課題の中に「仕事が足りていない」があります。日本の労働人口に対する失業率2.8％に対し、エチオピアは5.2％です（ILO:2017）。肩書としての仕事（職）はあっても、生活に十分な収入を得られるだけの仕事（対価を得られる実質的な労働）がない人もいます。故に、①失業者を減らすこと　②数多くある零細個人企業を支援すること。それが、私が配属されているディレ・ダワ市都市雇用促進及び食糧安全保障事務所の役割です。

起業ワークショップ

経験を重視するこの国の労働市場で苦しむのは、主に若者たちです。実際、配属先やカバレと呼ばれる地域オフィスには「仕事がない」と陳情する若者たちが入れ替わり立ち替わりやってきます。しかし雇用の受け口はそう簡単に増えません。そのため配属先のオフィスでは、若者たちの起業を後押ししたいと考えています。先日は起業ワークショップを実施しました。エチオピアでは研修といえば講義形式が主流であるため、グループワークを多く取り入れたワークショップは目新しかったようです。また、今いる失業者を減らすだけでなく、未来の失業者を予防しようという試みも計画しています。子供のうちから世の中の仕事を知り、将来の仕事について考える機会を提供することで、未来の失業率を抑えることを期待しています。



近くの山から見渡す任地、ディレ・ダワ

前述のようなワークショップは、配属先のスタッフが運営できれば私の任期終了後も続けられますよね、と配属先と話しています。最初はボランティアがメインで考えても、任期後半からはバトンタッチができるように、ワークショップ運営の仕方やイベント計画の立て方を伝えるなど、Sustainability(持続可能性)を考慮しながら活動していきたいと考えています。　(2019/8/26)

■塩谷真梨（北本市）
2018年度1次隊　東ティモール JV 栄養士

東ティモール マリアナでの活動について

東ティモールに派遣され1年が経ちました。私の任地マリアナは、首都ディリからバスで6時間、インドネシアとの国境近くにあります。東ティモールよりインドネシアの方が物価が安いため、マリアナの人たちは休みの日を利用してインドネシアに買い物に行くこともあります。マリアナには、観光名所としてマロボ温泉があります。温度は日本のお風呂に近く、日本人にとっては心地よい温度です。マリアナは盆地で山々に囲まれています。8、9月は強風、10月から3月の半年は雨期、その他は日中は日差しが強く、埼玉では経験した事のない気候を体験しています。

マロボ温泉

東ティモールの食事は、主食は米です。マリアナは、比較的水に恵まれているので稲作が行われています。住民は、濃く味付けされた野菜の汁でごはんをたくさん食べてお腹をいっぱいにしています。

派遣国一口知識 その②

東ティモール民主共和国

■概要
面積：約14,900平方キロメートル
（首都圏4都県（東京、千葉、埼玉、神奈川）とほぼ同じ
人口：約118.3万人
首都：ディリ
民族：テトゥン族
言語：テトゥン語及びポルトガル語。実用語にインドネシア語及び英語。
宗教：キリスト教99.1％イスラム教0.79％
主要産業：多くは零細農業。輸出用作物はコーヒー。石油・天然ガス（貴重な国家財源）

■日本との関係は
2002年5月20日独立した東ティモールを国家承認する。
円借款約53億円（2011年度）、無償資金協力約290億円（2002～2016年度）、技術協力（JICA経費実績ベース）約124億円（2002～2016年度）
在留邦人数124名（2017年）

■ 協力隊は
「保健」「農業」「観光」「スポーツ」の4分野に重点をおいて派遣を行っている。

（出典：外務省、JICA海外協力隊ホームページなど）

※ここでは、派遣国の簡単な情報を、できる限りわかりやすく紹介しています。

マリアナ病院

私は、栄養士として病院の栄養科に配属されています。現在の主な活動内容は、委託会社による給食を改善することです。また衛生環境の改善、食品衛生の伝授にも励んでおります。

首都には輸入品がお店に並んでますが、任地マリアナは野菜は旬の物しか市場に出回りません。そのため、赴任当初は同じメニュー、同じ野菜が続くという事が頻繁にありました。

病院食

私が伝える事もたくさんありますが、マリアナの住民からも多くの事を学んだり、考えさせられる日々です。任期が１年をきりましたが、残りの貴重な時間を有意義に活動を進めていきたいと思っております　(2019/8/31)

■楠本　薫（さいたま市）
2018年度1次隊 南アフリカ共和国 JV 小学校教育

南アフリカ共和国の学校給食について

皆さん始めまして。南アフリカのリンポポ州にある小学校に教師として派遣されている楠本です。

今回ご紹介するのは、子どもたちの学校給食についてです。

派遣先の小学校では、朝ご飯と昼ご飯を兼ねて給食が９：30～10：00の間に出されます。

子どもたちは朝学校に来た後、２時間勉強をして給食、そのあと３時間半勉強をして家へ帰ります。給食のメニューは毎日違うメニューで、１週間で１セットです。次の月曜日が来ると、同じメニューが繰り返されます。

具体的には、パップ（トウモロコシの粉を練ったもの）がメインで、それに＋αで何かが付くような形になります。パップと牛乳だけの日。豆とキャベツの日。パップ＋キャベツ＋肉スープと豪華な日。日本の小学校給食からみればとても質素なメニューですが、現地の子どもたちにとっては給食は一番の楽しみで、配膳台の前に競って列を作り、我先に給食を貰おうとします。

子どもたちに人気があるのはやっぱり肉スープが入っている日。小さなそぼろ肉ですが、子どもたちにとってはごちそうです。逆に人気がないのがカボチャ。パップの付け合せです。栄養も豊富なので、派遣先の地域ではよく食べられますが、子どもたちにはあまり人気がありません…。

給食のレパートリーは多くないかもしれませんが、南アフリカは政府の支援で給食を出してくれるだけ恵まれた国であると思ってもいます。１品だけというわけでもないので。給食をおいしそうに食べている子どもたちを見ているとこっちもおなかが減ってきます。

派遣先小学校からの給食に関するレポートです。

(2019/9/27)

■佐藤みづき（越谷市）
2017年度３次隊　タンザニア JV 小学校教育

『貧しい≠不幸』

子どもの頃、発展途上国をどうやって手助けするかを学ぶ機会が度々あり、テレビでは途上国の人々の生活が「苦しい、大変、辛い」といったネガティブな表現をよく見かけました。皆様はどんなイメージがありますか？

こちらに到着してすぐ目に入ったのは、高いビルが建ち並び、ブランド品を纏いスマートフォンを片手に歩く人の姿。少し街から離れれば、水道・電気無しの生活を見ることもできますが、どちらにせよ彼らは自分の環境を不幸とは思っていません。決して贅沢な暮らしができるわけではありませんが、日々の中に幸せな瞬間がたくさんあり、毎日笑顔で暮らしています。皆様は毎日笑っていますか？困っている人がいたら「どうしたの？」と手を差し伸べていますか？この国はそういうことがすぐできる温かい人ばかりです。

この国で嫌な思いを一度もしなかったわけではありません。でも、そういう苦しみや悲しみから私を救ってくれたのもこの国の人です。心の豊かさだけで言えば、むしろ日本の方が「貧しい」かもしれません。

幸せか不幸せかを決めるのは外野ではなく自分自身「貧しいと不幸はイコールではない」ということを知った１年９ヶ月。手助けするために来たはずが助けられてばかりの生活。国は違えども、寄り添い助け合いながら前に進めれば素敵だなと思う今日この頃。さぁ残り100日、果たして私に何ができるのか乞うご期待！（笑）(2019/10/10)

＊

●会報「國際青年」に原稿・写真の提供のお願い

会報「國際青年」を毎年５月および11月に発行しており、原稿を募集しています。

- 派遣される方については、派遣先での活動の様子を原稿と写真でお寄せください。「現地レポート」として、掲載させていただきます。タイトルを含め、原稿の字数は800字程度で写真は２～３枚でお願いいたします。なお、一言コメントでも結構です。
- 留守家族の方も、家族の思いなどをメールやFAXでお寄せください。

■埼玉国際青年を育てる会の今後の主な予定

- 2020年　１月中旬　理事会
  (総会で議決した事項の執行に関することを所掌しています)
- ２月　家族連絡会
  (埼玉県在留の留守家族を対象に開催しています。支援体制や帰国後のこと等JICA事業についての説明や経験者による体験談等のプログラムです)
- ３月下旬　３次隊壮行会
  (青年海外協力隊・シニア海外協力隊等として派遣される隊員を激励します)
- ４月上旬　常任理事会
  (緊急を要する事項や事業の実施に必要な要領等の制定等を所掌しています)
- ４月中旬　理事会
- ５月下旬　総会
  (事業報告と収支決算の承認、事業計画と収支予算の承認、役員の選任等を行います。総会終了後には、帰国隊員の報告会を開催しています)
  ▶詳細はホームページでご確認ください。

埼玉国際青年を育てる会設立当時の思い出

森　末　桂　一

「埼玉国際青年を育てる会」の事務局は、中東ミニ博物館ことAAセンター（アジア・アフリカ国際理解資料センター）にありました。AAセンターは当会の創立者である大野正雄先生のご自宅でした。平成22年に大野先生がお亡くなりになり、AAセンターもついに取りこわしになったとの事で見に行った所、更地になり宅地として売りに出されていました。何となく物悲しく当時を思い出して調べて見た所、平成17年度総会の后に10周年記念行事がありました。

平成17年度総会で事務局長に私が指名され、平成20年度迄務めさせて戴きました。

当初は、別の方に事務局長の就任を要請していた様ですが、当時その方にシニアボランティアとしての派遣の話が出て居り、それがはっきりしない為、家が近い事もあり10周年行事でAAセンターに日参していた私に白羽の矢が立ったようです。当時の事務局は会員名簿ほか大部分の資料が手書きであり、会合の案内書も日時や内容を部分的に変更したものをコピーして作成していました。鉛筆書きの原稿を家に持って帰り、一本指でワープロで作成と云う日々でした。

年数回の壮行会、会報発行のお手伝いや総会業務、その他で追いまくられていたような日々でした。

唯この間大野先生と共に仕事をしたと云う達成感だけが残っている様な気持です。

（埼玉国際青年を育てる会　理事）

■事務局便り

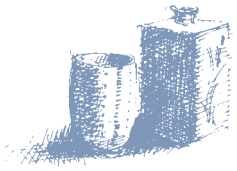
平成から令和へ

平成７年10月１日発行の当会広報誌「國際青年」創刊号のあとがきには次のようにある。「会設立の準備委員会13回の会議に先だつ５回の打合せの初会合は平成５年４月。２年６カ月余の会合を繰り返し、設立総会の時を迎えた。小さく生んで、大きく育ての願いのもとに」そして平成22年の第30号には、「本会の育ての親である大野正雄氏が他界されました。自らの国際協力の経験を踏まえ、本会の創設に尽力され、ご自宅を事務局に開放し、牽引車としてリードして来られただけに痛恨の極みです。国際青年を育みたい--- との故大野正雄氏の遺志を受け継ぎ、かつ今後をお見守りいただき、みんなで育てる会を発展させましょう」という星野会長の巻頭言が掲載されている。

さて、私は令和元年７月21日「私の好きな紬たち」という個展に氷川の杜文化館（さいたま市大宮区）を訪ねました。「志織」という会員の御母堂７回忌供養のための遺作展でありました。娘のために手塩に掛けた紬がそこにはありました。自然界の色素を汲み出すようにして、糸を染め、繰る作業をいとわずに美しい色を求めた姿が瞼に浮かび、志を織る母の想いを強く感じました。

令和を迎えこれまで当会のために尽力された皆様方に感謝し、遺志を忘れずに事務局運営にあたりたい。

（事務局長　矢部保雄）



■編集後記

台風15号，19号と度重なる災害が続き、川の氾濫や土砂くずれなど、甚大な被害に心がいたみます。被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。

その中で、日本で開催された「ラグビーワールドカップ」は日本中に元気と勇気を与えてくれました。仲間を信じて、倒されても傷ついても立ち向かっていく姿に感動致しました。

そんな中、今回も無事発行することができました。皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

（広報委員長　中島美都里）

・発　行：埼玉国際青年を育てる会
・編　集：広報委員会
・事務局：埼玉県鴻巣市下谷1576
矢 部 保 雄
TEL･FAX 048-543-1355
E-mail：yasuo.y08@gmail.com
・http://www7b.biglobe.ne.jp/~saitamakokusaiseinen/